

【試合結果】

男子 決勝トーナメント		準決勝																
日時	平成30年12月24日 (月)	10:20 ~																
会場	江別市民体育館																	
結果	札幌真栄中 札幌	<table border="0"> <tr><td>12</td><td>—</td><td>8</td></tr> <tr><td>15</td><td>—</td><td>14</td></tr> <tr><td>15</td><td>—</td><td>8</td></tr> <tr><td>16</td><td>—</td><td>18</td></tr> <tr><td colspan="3">OT</td></tr> </table>	12	—	8	15	—	14	15	—	8	16	—	18	OT			恵庭恵北中 石狩
	12	—	8															
15	—	14																
15	—	8																
16	—	18																
OT																		
	58	48																
審判	主審 岩崎 晋也	副審 松井 晋吾																

第33回北海道中学校バスケットボール新人大会



【ボックススコア】

札幌真栄中		札幌						
No.	選手氏名	出場	得点	3P	2P	FT	R	F
4	篠原 壘	×	6		3		6	4
5	大井 理生	×	19	1	8		11	1
6	川尻 達也	×	10		5		5	1
7	鈴木 温大	×	10		5		3	1
8	齋藤 真夢	×	13	3	2		2	2
9	若崎 勇智	DNP	0					
10	阿波 大希	DNP	0					
11	花房 零哉	DNP	0					
12	管野 光希	DNP	0					
13	花野 優太	DNP	0					
14	下村 颯音	DNP	0					
15	中田 陸生	DNP	0					
16	0	DNP	0					
17	0	DNP	0					
18	0	DNP	0					
HC	太田 祥史							
合計			58	4	23	0	27	9

恵庭恵北中		石狩						
No.	選手氏名	出場	得点	3P	2P	FT	R	F
4	山口 柊也	×	12	2	2	2	1	4
5	田中 孝法	×	9		4	1	6	
6	黒坂 優太	×	8	2	1		2	
7	長谷川 心禅	×	19		8	3	11	
8	小林 醒知	×	0				2	1
9	富岡 虹輝	DNP	0					
10	0	DNP	0					
11	0	DNP	0					
12	0	DNP	0					
13	0	DNP	0					
14	0	DNP	0					
15	0	DNP	0					
16	0	DNP	0					
17	0	DNP	0					
18	0	DNP	0					
HC	塚本 総朗							
合計			48	4	15	6	22	5

出場 ×:スターター /:途中出場 DNP:出場なし
 得点 3P:3ポイントシュート 2P:2ポイントシュート FT:フリースロー

【戦評】

南北海道大会男子準決勝B
 スターティングメンバー札幌真栄#4.5.6.7.8 恵庭恵北#4.5.6.7.8

1Q:両チームともハーフコートマンツーマンでスタート。先に流れをつかんだのは真栄。#6のジャンプシュートで先制。さらに、#5がオフェンスリバウンドから力強いシュートを決める。恵北は早めのタイムアウトで仕切り直しを図る。残り3分で恵北#6の3Pが決まり、初得点をあげる。しかし、真栄#5のミドルシュート、レイアップ、ゴール下のパワープレイで連続加点。残り1分で10-3とする。終盤に恵北#6の3Pや#4のレイアップが決まり12-8で1Qを終える。

2Q:両チームともスターティングメンバーで2Q開始。先に得点したのは真栄。#8がスピードに乗ったレイアップを決める。負けじと恵北7が力強いプレーで得たフリースローを2本とも決める。さらに、#4の3P、#5のフリースローが決まり、開始3分で14-14の同点に追いつく。その後、一進一退の展開になるが、先に流れをつかんだのは真栄。#7の速攻や#8の3Pが決まり、残り3分で21-17とする。しかし、恵北も#6の速攻やフリースローで簡単に流れを譲らない。真栄は#5、恵北は#7の1on1を中心に得点し、27-22で前半終了。

3Q:後半の口火を切ったのは真栄。#8の連続3P、オフェンスリバウンドからのシュートで加点し、開始3分で34-24とする。恵北も#4.5.7の1on1で打開しようとするが、真栄も5.8の連続3Pや#7のミドルシュートで加点し流れを譲らない。互いに得点を重ね、42-30で4Qへ。

4Q:開始から真栄は#4.7、恵北は#7がそれぞれ得点する。速い展開で連続加点したい恵北だが、真栄にオフェンスリバウンドを許し、リズムをつかみきれない。恵北はDFのプレッシャーを強めてボールを奪いにいくが、真栄#5が落ち着いてシュートを決める。残り2分、52-43となったところで恵北最後のタイムアウト。タイムアウト明け、さらにDFプレッシャーを強めた恵北だが、真栄の落ち着いたパス回しから#7.8が加点。終始リズムをつかんだ真栄が56-48で決勝へと駒を進めた。